

# わいまた NEWS

ロイマタとはニュージーランド先住民のマオリ族の間で愛と友情の絆を表すお守りの名前です。

第10号

2007年12月25日

【発行】

特定非営利活動法人あい・ぽーとステーション

〒106-0031 東京都港区西麻布 2-24-25-509

TEL 03-6657-8539 FAX 03-3499-8539

E-mail: [station@ai-port.jp](mailto:station@ai-port.jp)

URL: <http://www.ai-port.jp>

子育て・家族支援者養成講座事務局

## 浦安市二級支援者誕生

暮れも押し寄せました十二月十二日(水)、浦安市子育て・家族支援者養成講座(二級)第一期生の認定式が行われました。浦安市から松崎秀樹市長をはじめ、子ども部から、大塚久美子部長、算尚行次長、指田裕司課長、あいぽーとからは大日向雅美代表理事、新澤誠治代表理事が出席し、修了生の皆さんの認定を祝福しました。

「今日の皆さんは一段と輝いて見えます。講義・レポート・実習、家事をしたり介護をしたりしながら、よくやられました。心からおめでとー!」の言葉とともに新澤代表理事から受講生お一人お一人に認定証が授与されました。大塚部長の「この会場が、きりっとした中にも温かい空気で満たされているのは、厳しいレポートの嵐と温かい講座の間で生まれた強い連帯感の賜物なのですよ」とのお言葉どおり、認定証を受け取られた皆様の眼差しは優しく輝いていました。

「多用の中、開講式同様駆けつけて下さった松崎市長。「十月三日から十二月五日迄、厳しい内容を乗り越えて下さった皆様を、浦安の空は『すつてんばれ』で祝福しているかのようです。真の豊かさを味わえるまちづくりを目指し、浦安市にとって、子育て中の家族の愛情をサポートする皆様の存在は大きな力です。今後はあい・ぽーとステーションのお力を借りしながら、子育てケアマネージャーも誕生すること。頑張ってください」と二人一人が担っている大きな使命に期待のお言葉を頂きました。

「子育て子ども家庭支援センターに寄せられた十八年度の相談件数は前年の六十増。実際の現場でまさに活躍されることを期待するとともに、側面からしっかりとサポートしていきます」と、側面からしっかりとサポートしていきます。



浦安市 松崎秀樹市長

最後に大日向雅美代表理事から、「日本はさまざまな面で危機を向かえています。この変化をチャンスにする為に、なにより大切なのは人づくり。顔と顔が見える支え合いのシステム。働くこと。学ぶこと。皆様が今向かわれているところが、地域が命を吹き返す大きな力なのではないかと思うのです。これからもあいぽーとステーションは微力ではありますが、スタッフ一同心を

つにして福祉社会を目指される浦安市、そして皆様の活躍をお手伝いさせて頂きます」と新しい出発にエールを送りました。

つにして福祉社会を目指される浦安市、そして皆様の活躍をお手伝いさせて頂きます」と新しい出発にエールを送りました。



浦安市 子育て・家族二級認定者十九名・準認定者四名誕生

## 千代田区 バックアップ研修

十一月十二日、千代田区第七回バックアップ研修が千代田区役所にて行われました。一期生、二期生あわせて十七名が参加。「活動状況報告及び課題解決に向けた助言」というテーマで、講師をあい・ぽーと代表理事大日向雅美が務めました。

まずはじめに、「支援活動の中で、どなたかの相談に乗るような機会がきつとあると思います。そんなとき、相談者に対してやってはいけないことは何だと思えますか?」と質問が投げかけられました。「私も同じよ」と自分の経験などをお話始める方、相談者に対していろいろ質問攻めにする方など。支援活動に携って頂いている方には、一般的に他人に

対する興味や好奇心がある方が多いようです。それは悪いことではありません。むしろいいことだと思えます。ただし、相談者に対して共感するところから始める必要があります。」と大日向先生。

支援者の方からの報告では、「児童館の活動において学童クラブでの補助業務をしているが、おやつにスナック菓子が提供され、職員の方に『残さず食べさせて欲しい』と指導されることがあった。児童館では行事や子どもたち自身も忙しいので、ゆつくりおやつを食べる時間もないという事情もあるようです。子どもたちに、手作りのものを食べさせたいという気持があるが、『食育について』の研修を企画してもらえたら嬉しい」との意見がありました。あい・ぽーとでは、恵泉女学院大学の有機農場と提携をして、「グリーンサポート」という活動をしており(ろいまた第七号参照)、食育についての研修も検討していきたいと考えています。

児童館の活動については、支援者の方から直接に職員の方に意見を述べるには、少し壁があるように感じるなどの意見もありました。直接言いにくいこともあるかと思いますが、何かありましたらいつでもあい・ぽーと養成講座事務局までご連絡下さい。また、児童・家庭支援センター子育て支援係の新治係長より、「支援者の方々と児童館の館長との間でお話し合いが出来る場を設けるように検討していきたい」との意見をいただきました。

この研修では、「子どもたちが健やかに育つお手伝い(シルバー人材センターの子育て支援)」のビデオを鑑賞いただき、一時預かり保育の活動の参考となったと思います。(伊藤)

# 第九回浦安市ベビーマップ研修

小春日和に恵まれた十一月十四日(水)、

第九回浦安市ベビーマップ研修が、浦安市子育て・家族支援者三級I期生を対象に、開かれました。養成講座二級の講義に続いての研修ということもあり、参加者は八名。

「お久しぶりです」と話し始める大日向代表理事に、「先生、講義続きでお休みになる時間はおありでしたか？」など温かな言葉が交わされるアットホームな雰囲気の中、研修がスタートしました。

「一分以内で、支援活動にとっても大切なことに気付けるワークをやってみましょう。」

- 一、課題は一度だけ言います。
- 二、A四の紙を縦に置いてください。
- 三、上と下に△を三つ書いてください。
- 四、○を一つ書いてください。
- 五、横に線を一本書いてください。

熱心にワークに取り組まれる支援者の皆さん。そして、お一人お一人が書かれたもののおまりの違いに驚かれた顔。



大日向雅美代表理事

「私は皆さんに同じ情報を伝えました。けれどもこれだけの違いがあります。人は一人ひとり違うということとを、私たちはどれ程実感できているでしょうか。それを心から知っていくことは、子育て支援にとっても大切であると同時に、温かく

見守ることへの大きな喜びに繋がっていくことでしょう。大日向代表理事のメッセージ。互いの違いを認めあう大切さを、ワークを通して体験することができました。

その後「赤ちゃんとお赤ちゃんを見守り育てる人々」に関するビデオを観ました。赤ちゃんの持つさまざまな能力の中で、コミュニケーションの役割を果たしている『泣き声』。赤ちゃんが泣くことにより、親や自分を見守り育てる人々と相互交渉していく様子を勉強しました。「赤ちゃんの性格は、気質と環境が掛け算の関係で形成されていきます。大きな愛情箱を持つている赤ちゃんは、たくさんの愛情を注がなければいづばいにならないなど、一人ひとり気質に違いがあるでしょう。そしてその気質に加え、周りで接する方々の対応がとんでも大切な環境となるのです」との助言。子どもを支援していく際、一人ひとりの違いを分かり、また柔軟に対応することがとても大切であることを学ぶことが出来ました。

日頃の支援活動に関する率直な悩みも語られました。「支援している一才になったばかりの子どもの几帳面な行動が気になります。お母さまの潔癖過ぎる態度が心配です。」

「何でも完璧を要求し、それに応える親子関係は、人格は気質と環境の掛け算、と考えれば、より自然であるとも考えられます。しかし、規定外のことが起きた時は心配です。何でも完璧が挫折するとき、柔軟な方々の存在を必要とする時が来るかもしれません。その時は大きなチャンスですね」と大日向代表理事。根を張った息の長い支援の大切さ、子育て支援をしていく大きな意味を感じること

のできたひと時となりました。(松本)

# 第十回浦安市ベビーマップ研修

浦安市第十回ベビーマップ研修が、十二月十二日(水)に行なわれ、師走の忙しい時期にも関わらず、浦安市子育て・家族支援者三級II期生、二十八名の方々に参加いただきました。

講師の新澤代表理事の「今日の子育て支援は第三ステージに入っていると言われています。点と点で行われてきた支援が面となっていくことが大切な折、指導型とは違うパートナーに寄り添



新澤誠治代表理事

う皆様のような支援が強く求められているのです。認定から四ヶ月余り、子育て支援で困ったこと、悩んでいること、また嬉しかったこととともに考えましょう！」という声掛けで、支援者の皆様はグループに分かれ、研修が始まりました。

II期生の方々にとって初めての研修。すでに児童館等で活動されている方、ファミサポに登録してこれから活動をしようとしてされている方など立場はいろいろでしたが、活発な意見が交わされました。「三級の講習を受けて、地域や、子ども達に目が向くようになった。『あの段差は超えられないかな。』など保育者の目で捉えるようになった。また、『支援者としてお母さまたちのことを客観的に見られるようになったが、逆に対応の仕方が

難しいと思うようになった。』などの意見が出されました。新澤代表からは、「子育て中のお母さん達にアンケートを取ると、『一番嬉しかったことは笑顔を向けられたこと』だそうです。こんにちは、よくいらつしやいました、お久しぶりです、など人と人とを繋ぐ言葉、関わる言葉を大切に、まずは笑顔で聴いてさしあげる。さまざまな経験で培ったやさしく、たくましい皆様の温かい手を差し伸べていって欲しい」とのエール。

「保育サポーターの立場の不安定さを感じる」とのお悩みには、「身近な親しみの持てる存在、ほっと出来る存在はかけがえがありません。長い間いることよって生まれる存在価値というものがある」との心強い励ましがありません。(佐藤)

# 全国自治体職員研修

住友生命創業百周年記念事業『未来を築く子育てプロジェクト』助成事業として、全国自治体職員研修第二回・第三回が、十月と十二月、四日間にわたって行われました。第二回のテーマは「市民・NPOとの協働を進めるために」、第三回は「わが市わが町にふさわしい子育て支援をつくるために」です。大日向雅美代表理事(恵泉女学園大学大学院教授)、新澤誠治代表理事、汐見稔幸理事(白梅学園大学学長)、小西行郎理事(東京女子医科大学教授)、大宮登教授(高崎経済大学)、岡健准教授(大妻女子大学)、柏女霊峰教授(淑徳大学)、佐伯裕子氏(三鷹市立北野ハピネスセンター園長)、西川正氏(NPO法人市民活動センター・ハンスオン埼玉副代表理事)、度山徹氏(厚生労働省政策統括官付



住友生命 井上小太郎次長



住友生命 澤春生上席部長代理

開催にあたっては、この研修の実現のため、多大なるご尽力を頂いた、住友生命調査広報部の井上小太郎次長、澤春生上席部長代理、広報室の宮崎淳子氏に、お忙しい中ご臨席賜り、受講生の方々に、時にはエールを、時には問題提起をして、研修を終始見守って頂きました。

・社会保障担当参事官室政策企画官、渥美由喜氏(株式会社富士通総研・経済研究所主任研究員)という講師陣に、全国から各自治体で子育て支援行政に従事されている方々約七十名が参加され、子育て支援行政についての熱い研修が行なわれました。



新澤誠治代表理事



大日向雅美代表理事



汐見稔幸理事



小西行郎理事

『早期発見』が重要とされているが、何のための誰のための発見なのか、発見した後の療育体制が確立された上で行われているか」と問題点を提起されました。

「子育て支援とは一体何なのか、自分の中に物差しがない」、「市民との協働という課題をしっかりと学びたい」、「他の自治体の先進事例を学びたかった」、「地域子育て支援拠点を立ち上げる参考に」など研修参加の様々な動機があるなかで、「市民のニーズをどう受け止めるか、行政の中での理解が進まない」、「上司や部下をどう説得して進めていくか」、「子育て支援のネットワークをまとめたがなかなかうまくいかない」、「NPOとの協働の指針をつくったがうまく進まなかった」、「子育て支援とは何であるか。市民のニーズは余りに多様。選択するのが大変」などの課題も率直に語られました。



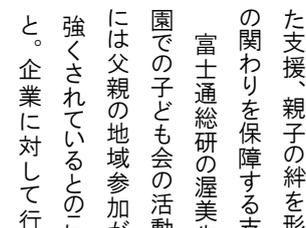
ハビネスセンター 佐伯裕子園長

汐見先生から、「子育て支援が必要があるから声が出る。ニーズとは必要であつて要求とは必ずしも一致しない。親のニーズに配慮することが子どもにとって幸せなのかよく考えること、現場に行つて声をよく聞くことが重要である」という強いメッセージが発せられました。

佐伯先生からは「市民の目線に立つて、よく声を聞き共感することが大切。行政としてできること、できないこととはつきり伝える一方、しっかりと思いを受け止めることではじめて、行政としてコーディネートができる」という助言を頂きました。

また、小西先生は、「虐待や発達障害について『早期発見』が重要とされているが、何のための誰のための発見なのか、発見した後の療育体制が確立された上で行われているか」と問題点を提起されました。

大日向先生は、まさに行政との「コラボレーション」としての成果である「あい・ぽーと」の一時預かり保育事業や子育て・家族支援事業を紹介され、子育て支援の人材養成の重要性について述べられました。大宮先生には、「大学、自治体、NPOとの協働による地域づくりへの取り組み」について、高崎経済大学での活動などを例に紹介して頂き、西川先生からはハンスオン埼玉の「おとうさんのヤキイモタイム」の紹介や、自治体職員に求められる「協働」に対する意識変革についての提言を頂きました。



高崎経済大学 大宮登教授



淑徳大学 柏女霊峰教授

柏女先生は「つながりを喪失し倫理観の欠如した社会の現状認識から、子どもの発達に応じた支援、親子の絆を形成する支援、多様な人との関わりを保障する支援」を提案されました。富士通総研の渥美先生は、「自身の地域の公園での子どもの会の活動から、協働を進めるためには父親の地域参加が重要である」という思いを強くされているとのこと。企業に対して行政として何ができるか。WLB(ワークライフバランス)を実現するための各国の施策や先進企業の取り組みを紹介して頂きました。



富士通総研 渥美由喜主任研究員

厚労省の度山先生は、「子どもと家族を応援する日本」重点戦略の策定の大詰め時期に駆けつけて下さり、国の施策について最新の情報を解説して頂きました。急速に進む少子化、労働人口の減少の対策として二つの「車の両輪」になる、「働き方の改革」「社会的な基盤の充実」について、「WLB憲章」や「働き方を変える、日本を変える行動指針」が年内に策定されること。社会的基盤を充実するには現金給付とは別に、現物給付(一時預かりや放課後児童クラブなど)が必要であるとの提言がありました。



ハンスオン埼玉 西川正副代表理事



大妻女子大学 岡健准教授

岡先生と西川先生には、「わが市、わが町にふさわしいプランづくり」というテーマでワークを行なって頂き、「施策を進めていくときに、如何に当事者の声を聞き、具体的に絵を描けるか」について、自治体職員の方々に体感して頂きました。研修の成果として、子育て支援は「親支援だと思つていただけ、実は地域づくりだった」「行政がやるものだと思つていただけと協働でやる必要がある」「福祉だと思つたけれど自治体を運営するひとつの方法だと思つた」「難しいけれど未来をつ

厚労省の度山先生は、「子どもと家族を応援する日本」重点戦略の策定の大詰め時期に駆けつけて下さり、国の施策について最新の情報を解説して頂きました。急速に進む少子化、労働人口の減少の対策として二つの「車の両輪」になる、「働き方の改革」「社会的な基盤の充実」について、「WLB憲章」や「働き方を変える、日本を変える行動指針」が年内に策定されること。社会的基盤を充実するには現金給付とは別に、現物給付(一時預かりや放課後児童クラブなど)が必要であるとの提言がありました。



厚生労働省 度山徹政策企画官

くる夢のあるもの」等の感想や、依然として残る「多様なニーズにどのような優先順位でやっていけばいいのか」「母親の育児力の低下、子どもの将来が心配」「支援の担い手を確保するには」などの課題も発表されました。



全国自治体職員研修(第三回)  
グループワークに臨む受講生の方々

三回の研修を振り返って、汐見先生から「子育て支援というものは簡単ではない。難しいことだからこそ研修の成果として新しい課題が見えた。問題の性格が分かって次の一歩を踏み出していただければいいと思います。行政と市民の関係をつくり変えていくことのきっかけになつて欲しい。」とのエールを頂きました。最後に大日向先生の「住友生命の支援を受けて念願の研修が実現し、たくさん自治体職員の皆様に参加して頂いたこと、またスタッフにしてお褒めの言葉を頂けたこと、心より感謝しております。あい・ぽー」という子育て支援の現場に実際にお越し頂き、皆様の笑顔と笑いが会場に溢れて嬉しかったです。皆様が地域に帰つてどれだけ素敵なお子育支援策を打ち出して頂けるか楽しみです。来年度もこのような研修をぜひ続けて行きたいと願っています」との言葉で閉会となりました。

## 千代田区

第八回 バックアップ研修のお知らせ

千代田区 子育て・家族支援者養成講座受講修了生対象、バックアップ研修を左記の通り開催致します。

日時平成二十年一月二十三日(水) 午前十時から十一時三十分  
場所千代田区役所 四〇一室  
テーマ:「古武術で子育て」

肩こり・腰痛を予防する抱っこ仕方など

講師 介護福祉士 岡田慎一郎先生

(NHKの子育て番組等で活躍の先生です。)

ご出席の方は一月十五日(火)までに、あい・ぽーとステーション事務局  
(TEL:03-6657-8503)までお申込みください。

定員 先着三十名

## 「につけい子育て支援大賞」受賞!

NPO法人あい・ぽーとステーションは、この度、日本経済新聞社二〇〇七年「につけい子育て支援大賞(第二回)の民間部門において、大賞を受賞しました。

「子育て・家族支援者養成」の人材育成事業と、親子の交流を促進させた「子育てひろば」事業が高く評価されての受賞です。日本経済新聞の十二月十二日号の全国版朝刊に受賞の記事が掲載され、来年一月に授賞式が行なわれます。

子育て支援者の方々ならびに養成講座を応援していただいた方々に、スタッフ一同より心からお礼申し上げます。



## 事務局スタッフから



凜とした寒さを感じる頃となりました。歩いていると、自然と温かいものばかりが目にとまります。湯豆腐、お鍋、おでん、etc.けれども、身にしみて感じられるのはやっぱり人の温もりです。

突然の依頼に、お休み返上で児童館に駆けつけて下さる支援者の皆さま。そんな温かいお一人お一人のお心に、私は心がじんわりと温まり、きっとたくさん子ども達の心も温かいのだな~と思ったります心から汗が出ました。

忙しい師走も元気に過ごせそう。感謝の気持ちでいっぱいです。(佐藤)

毎年思いますが、振り返ってみると一年の過ぎ行く速さにびっくりします。源氏物語にある「ねびまさる」という言葉は、年齢を重ねるごとに美しさと品格を増してゆく人々の様だそうです。昔からそのような言葉があることに、年を取ることへの希望が感じられちょっと嬉しくなります。(榎本)

我が娘が出場予定の中学校駅伝大会が近づいて来ました。娘は「とにかく練習あるのみ! 精一杯頑張るだけ♪」と平常心です。その姿を見ている私は、自分が走るわけでもないのに、ハラハラドキドキ。当日こそは娘を見習い、平常心で行こうと思うこの頃です。(松本)

甥が五歳になり、体力も性格もしっかりしてきたと感じています。週末、近くの広場に遊びに行くのですが、野球の相手が欲しい甥は、少し大きいお兄さんに「いっしょに野球やりませんか?」と声をかけています。「いまサッカーやってるから...」「他の友達と遊んでいるので...」と断られることもありますが、たいてい一、二組の親子には、お付き合いいただき、一期一会のキャッチボールを楽しんでいます。(伊藤)